

「笑顔で寄り添って67年」

長い年月をともに歩んでこられた大平智誠様・富子様ご夫妻。これまでの人生の歩みには、たくさんの思い出と、支え合ってきた時間が詰まっています。今回は、お二人の絆や日々の暮らしについて、お話を伺いました。



レンゲ畑で決めた、 遠い北の国からのご縁

お二人の出会いのきっかけは、“ご縁のリレー”から。富子様のご友人宅が、智誠様の親戚だったことから始まりました。北海道で建設業に従事していた智誠様が、お正月に親戚宅に帰省した際、はじめてお二人が顔を合わせました。

その日は少しお話をしただけでしたが…後日、その家の方から富子様に「いい縁談やない？」と連絡が…。

突然の縁談に戸惑った富子様は、家の近くのレンゲ畑で大の字に寝転び、「真面目そうな人だったし…北海道は遠いけれど大分から出てみたい気持ちも…どうしよう？」と、夕焼け空を見上げて思いを巡らせたそうです。

そして、一大決心！富子様は智誠様とのご縁を受け入れることを決意されました。

このレンゲ畑での光景は今でも強く富子様の目に焼き付いています。



——お互いの第一印象は？——

富子様は「真面目そうな人だと思いました。」と微笑み、智誠様は「かわいい子やなあと思いましたね。」と少し照れながら教えてくださいました。

「喧嘩しないで暮らそじゃないか」 ——67年続く、ふたりの約束——

結婚後は大分で2、3日ほどお披露目をしたのち、そのまま北海道へ出発することになり、それがまるで新婚旅行のようなものだったと、お二人は懐かしそうに笑います。

道中、仙台の松島に立ち寄った際、目に留まったのは…2つの骸骨が並んだ絵のそばに記された一句。

「喧嘩しないで 暮らそじゃないか
すゑは 誰でも このすがた」
(喧嘩しないで 暮らそじゃないか 末は誰でも この姿)

その言葉に智誠様は深く心を打たれ、「うちはこれでいきましょう！」と富子様に伝えたそうです。

それ以来、お二人はその言葉を胸に、67年間いさかいもなく穏やかに過ごされてきたそうです。

富子様は「喧嘩しても面白くないし、楽しい方がいいですから。これが私たちの大切にしている言葉です。」と笑顔で語り、智誠様も「これだけが私たちの自慢です。」と優しく続けます。



松島

“夫婦円満の秘訣” お伺いしました！

富子様「やっぱり思いやりを持つことです。」
智誠様「かばい合うっていうんかなあ…
お互い助け合っていくことやなあ。」

——長い年月を経ても変わらぬ思いやりが、
お二人の絆を支えているのだと感じます。



本とミシン、そして旅 ——お二人の“好き”が彩る毎日——

智誠様の趣味は、昔から変わらず読書と新聞。本を持ち歩き、時間が空いたときには読書をされるそうで、静かにゆったりと流れる時間を大切にされています。

一方の富子様は、和裁も洋裁もこなされる器用さで、若いころからご自身の洋服はほとんど手作りだったそうです。今でもミシンを使ってサイズを直したり、長年の腕前は現役そのもの。「作業している間は時間を忘れていきます。」と、話してくださいました。



こちらのページに並ぶ作品は
全て富子様のお手製です。
お二人のお部屋を訪れると、
季節ごとに彩りを添える様々な
作品が出迎えてくれました。
センス良く配置された作品が
居心地の良い素敵空間を作り
出しています。

そしてお二人に共通する趣味は、旅行だったそうです。定年後は日本全国を巡り、その土地の文化や歴史を学んだり、たくさんの思い出を重ねてこられたそうです。

「どこも楽しかったねえ」と懐かしそうに顔を見合わせるお二人の姿に、仲の良さがにじみ出ていました。

お互いの“ココ”がすごい！

智誠様「和裁も洋裁もできて、手仕事をなんでもこなすから本当に尊敬しますわ。」

富子様「判断力です。なんでも主人に相談すればきちんとした答えが返ってきますから。信頼しています。」



富子様が娘さんの振袖を
仕立てた際の布を使って
製作された思い出の人形

このたびは、インタビューをご快諾いただき誠にありがとうございました。お話の一つひとつに、お二人の歩んでこられた年月の深みと、互いを思いやる優しさが感じられ、心がとても温かくなりました。これからもどうぞお元気で、心豊かで幸せな日々をお過ごしください。

職員一同

左から順に…富子様の長襦袢、智誠様のお母さまの着物・長襦袢をリメイクした作品



「ここが一番ちょうどいい」 ——はなぞのでの穏やかな日々——

お二人は約1年前にケアマンションへ入居されました。入居のきっかけは、富子様の足の痛みを心配された智誠様のひとこと。「どこか良い施設があったら入ろうや。」その優しい気づかいと、ちょうどご友人が入居されていたこともあり、「ケアマンションはなぞの」への入居を決められたそうです。

「食事の準備をしなくてよくなって、家事がずいぶん楽になりました。洗濯や掃除はしますが、自宅に比べたら洗濯物を干すまでに段差もないし、距離が短くなって掃除の範囲も狭いから、すごくちょうどいいんです。草取りもしなくていいですし。」と、にこやかに話してくださいました。

食事の話題になると、「美味しくいただいています！苦手なものはないんです。食料を大事にする時代に育ったから。」と微笑まれます。

また、他入居者様とも少しずつ交流を深め、「自分から話しかけるのは緊張するんですが…皆さん優しく声を掛けてくださるから嬉しいです。」と富子様。

感謝の気持ち ——そして大切な人たちへ——

——お互いに「ありがとう」と伝えたいこと——

「そりゃあもう、いくらでもありますよ。いつも世話をしてくれて助かっています。」と、智誠様は満面の笑み。

富子様は、「今まで一生懸命働いてくれたことです。おかげさまでこうして暮らせています。」と、穏やかに語ってくださいました。

お互いを思い合う気持ちが、言葉の端々から自然ににじみ出ています。

——ご家族やご友人に伝えたいこと——

「いつも気を遣ってくれて、優しくしてくれて本当にありがとう。これからも元気でいてね。」